

葯長と不稔歩合の関係

福島県農業試験場相馬支場
平成15年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

水稻－水稻－気象災害、生育診断予測
分類コード 01－01－32250000

2 担当者

菅田 充・大和田正幸

3 要旨

「あきたこまち」、「ひとめぼれ」の葯長と不稔歩合の関係を検討した。葯長調査の試料は、出穂日に採取した穂の第1枝梗3、4、5番穎花、及び第5枝梗5番穎花を使用した。不稔歩合調査の試料は、同じ区その他株の穂を使用した。

「あきたこまち」、「ひとめぼれ」とも葯長と不稔歩合の間には高い負の相関があり、葯長が短くなるに従い不稔歩合は直線的に高くなった。このことから、葯長は不稔歩合を予測するための指標として有効であると考えられた。また、第1枝梗3、4、5番穎花を用いた場合よりも第5枝梗5番穎花を用いる方が調査が簡便で、結果にも大きな差は認められなかった。

なお、調査した第5枝梗5番穎花の葯長は0.97mmから1.59mmの範囲にあり、葯長と不稔歩合の回帰式は、 $y = -159.16x + 256.42$ ($r = 0.974$)であった。やく長が1.1mmで不稔歩合が80%程度、1.3mmで50%程度と予測された。

4 その他の資料等

なし